



えんぶり

国立病院機構八戸病院

発行元：独立行政法人国立病院機構八戸病院
National Hospital Organization
Hachinohe National Hospital
〒031-0003 八戸市吹上3丁目13番1号
TEL 0178-45-6111 FAX 0178-43-7814
ホームページ
<http://www.hosp.go.jp/~hatinohe/>

令和5年11月発行 第78号

「高校生一日看護体験」を実施して

副看護師長 白石 静

去る7月26日、高校生一日看護体験が実施されました。参加したのは、八戸圏内の高校生3名です。最初は緊張した様子でしたが、実際に患者さんの手浴をしたり、バイタルサイン測定やストレッチャー・車椅子操作など、看護技術の体験を通して、徐々に緊張もほぐれていき素敵な笑顔を見せてくれました。

看護体験により、看護師の仕事や病院にはさまざまな患者さんが入院していることを知ることができたようです。患者さんから、「ありがとうございます」と声をかけてもらえたことが、「緊張したけど嬉しかった。」と話してくれました。また、この体験から、看護は難しく、怖くて、忙しくて重労働だけれども、やりがいがあり、誇りがもてる素晴らしい仕事だと感想を述べてくれました。今回、患者さんや看護スタッフと関わることで、病院の環境や看護を知ってもらう良い機会になったと思います。



基本理念

私たちは、すべての患者さまとご家族に信頼され満足していただける確かな医療と生活支援を提供します。

基本方針

- 一 地域医療に貢献します
- 二 患者さまの権利と尊厳を守ります
- 三 療養環境と患者サービスの向上に努めます
- 四 良質で安全な医療の提供に努めます
- 五 誠実な看護を実践します
- 六 健全な病院運営を行います

目次：

「高校生一日看護体験」を実施して	1
副看護師長 白石 静	1
令和5年度新採用者	
リフレッシュ研修を開催して	
教育委員 副看護師長 大澤麗美	2
医薬品の安全使用研修	
薬剤科長 山田 健	3
『院内感染対策研修』	
～新型コロナ5類移行後の感染対策について～	
看護師長 山口 道代	3
臨床実習生を迎えて	
一般作業療法主任 坪田 達也	4
第22回北東北国立病院	
医療研究会に参加して	
管理課長 小林 孝之	4
病院案内図	4
編集後記	4



令和5年度新採用者リフレッシュ研修を開催して

教育委員 副看護師長 大澤麗美

今年のリフレッシュ研修は「八戸公園(子どもの国)」に行ってきました。院外で行う研修は初めてです。企画においては、新人看護師が楽しむためにはどうしたらいいかを模索する日々でした。そして迎えた研修当日は梅雨の合間の晴天、最高気温33℃。体調不良者が出ないことを祈りつつ、子どもの国へ出発しました。

到着後は木陰に移動し、ゲーム開始。最初は人数が増えるほど難易度アップの自己紹介リレーでしたが、苦戦しながらも全員の名前を覚えたところで次のゲームへ。次のゲームは、口パクやジェスチャーを使った伝言ゲーム。伝えることの難しさを痛感しながら笑いありの大盛り上がりで終了しました。伝えることは看護では大切なことです。このゲームの意図は伝わったと思います。その後は2チームに分かれ「生き物と写真を撮ろう」ゲーム。特に遮光器土偶を手に乗せて写真を撮ることが出来たら特別ポイントと聞き、一生懸命に遮光器土偶を手に乗せようと「もっと右、いや左」と笑いながらコミュニケーションをとる新人看護師たち、本当にいい顔をしていました。

院内に戻ってからは食べて飲んでの格付けチェックゲーム。コーヒーや水、コーラの飲み比べを目隠しをして新人看護師全員で行いました。ほぼ全員が正解、と言いたいところでしたが、残念ながら全員コーヒーは間違えました。

新人看護師の皆さんにはリフレッシュできたでしょうか？私自身とても楽しい研修となりました。



医薬品の安全使用研修

薬剤科長 山田 健

令和5年6月29日に、医療安全研修「医薬品を安全に使用するため」(当院の現状と過去インシデントの事例より)と題し、多数の聴講者にお話させて頂きました。

当日のおおまかな内容は、医療事故防止に必要な薬の知識として、ハイリスク薬、薬の種類と管理(麻薬・毒薬・劇薬・向精神薬)、薬の飲み合わせ(食品と相互作用)、6Rの重要性と医薬品の管理及び輸液の話についてとなりました。

お話の前に、ひとつお願い事をいたしました。入院される患者さんがいる場合は、必ず「持参薬鑑別依頼書」を、薬剤科に提出して頂き、薬剤師が作成する「医薬品鑑別報告書」を参考に、代替薬や薬の注意事項を確認し、当院での処方せん入力の参考にしてください。このタイミングで麻薬や覚せい剤原料及び毒薬が持ち込まれた時の病棟対応が異なるため、この確認がとても重要になってきます。

過去に隔日投与の抗がん剤が待ちこまれた時、そのお薬の正しい使用方法が理解されないまま、連日投与され、運悪く患者さんが骨髄抑制にて死亡する例もありました。

これまで持ち込まれたことのない薬がある場合は、薬剤師が病棟に出向いて、使用方法の説明に上がります。今後もお薬についてご不明な点は薬剤師のご相談ください。



『院内感染対策研修

～新型コロナ5類移行後の感染対策について～

看護師長 山口 道代

新型コロナウイルスの感染症法の位置づけが、2類から5類に移行され、「何が変わったのか、どうすればよいのか」、感染対策について研修会を開催しました。マスクの着用については5類移行に先立って3月31日に『マスク着用は個人の判断』と考え方が見直されました。しかし、医療機関・高齢者施設訪問時、通勤ラッシュなどが効果的な場面での着用が推奨されています。当院でも院内でのマスク着用、手指衛生や換気は今までと変わらず有効として継続しています。では、5類となった今、万が一新型コロナウイルスに感染した場合にどのように行動したらよいのでしょうか。発症の翌日から数えて5日間は周囲への感染リスクが高いことは変わりなく、症状が良くなっても24時間程度は外出を控えるよう厚生労働省から出されています。

5類に移行しても今までの感染対策からの変更はありません。健康観察を継続して発熱・咽頭痛・咳など症状がある際に速やかに受診など対応を取ってください。そして、飛沫感染・接触感染を防ぐためには正しいマスク着用・正しい手指衛生・換気が重要となります。一人一人が意識して院内感染防止対策を実践ていきましょう。





臨床実習生を迎えて

一般作業療法主任 坪田 達也

こんにちは。作業療法士の坪田です。今年度のリハビリテーション科での臨床実習受け入れは3件であり、私も臨床実習指導者として学生を担当させていただく機会がありました。

学生には重症心身障がい児(者)・神経難病患者のリハビリテーションを中心に学んでいただきました。振り返ると、あまり馴染みのない疾患のためか、初めはうまくできない・関われないことがありましたが、徐々に慣れていく、学生や関わる患者さんも笑顔がみられました。指導する私自身もいい経験となり、学生パワーを感じさせられました。最後に1件の実習を控えています。引き続きみなさまの温かい目で学生を見守っていただきたいです。ご協力をお願いいたします。

第22回北東北国立病院医療研究会に参加して

管理課長 小林 孝之

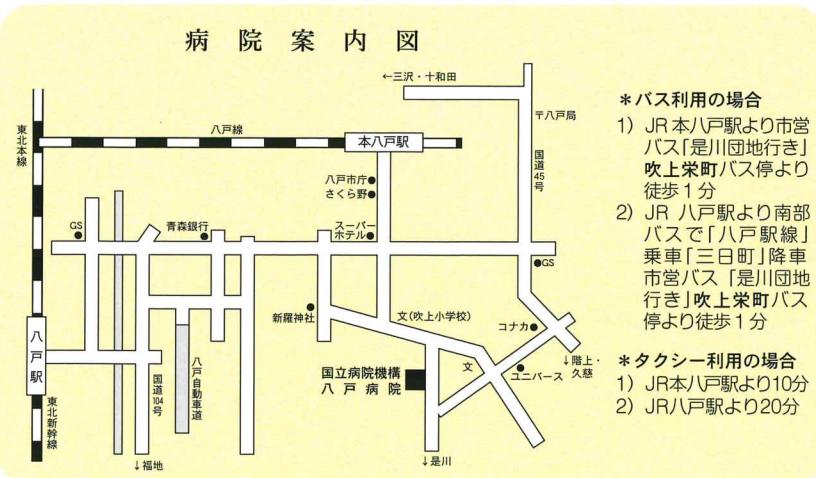
11月10日、弘前総合医療センター、青森病院、八戸病院、盛岡医療センター、あきた病院が参加する北東北国立病院医療研究会が弘前総合医療センターで開催され、当院からもポスター発表という形で演題登録しました。

講演会は臨床研修医の講演を中心に行われ、まだまだ臨床経験が少ない中で、研鑽、努力し、素晴らしい講演を一生懸命行っておりました。



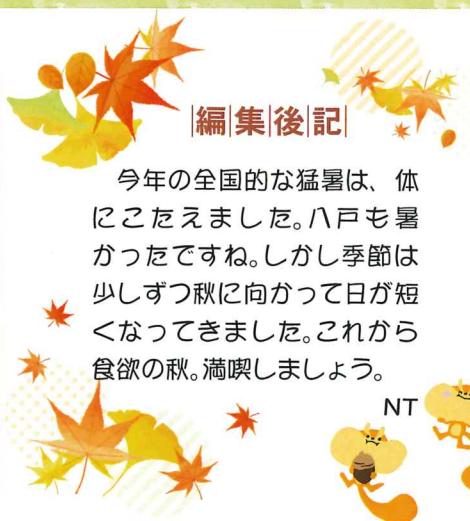
講演会での発表は、若い医療人、多職種の職員にはあまり多くなく、この様な機会を設けることで、仕事に対する意欲が向上し、医療に対する責任意識も強く芽生えるのではないかでしょうか。

講演された皆様、本当にお疲れ様でした。私も機会があればまた聴講させていただきます。



- *バス利用の場合
1) JR本八戸駅より市営バス「是川団地行き」吹上栄町バス停より徒歩1分
2) JR八戸駅より南部バスで「八戸駅線」乗車「三日町」降車市営バス「是川団地行き」吹上栄町バス停より徒歩1分

- *タクシー利用の場合
1) JR本八戸駅より10分
2) JR八戸駅より20分



今年の全国的な猛暑は、体にこたえました。八戸も暑がつですね。しかし季節は少しずつ秋に向かって日が短くなっています。これから食欲の秋。満喫しましょう。

NT